

木山捷平展

企画展

生誕120年記念



黙

目も
あ

し
よ
う
い



2024
2/17(土)~4/14(日)

会場 / 姫路文学館 北館

※休館日 / 毎週月曜日、3月21日(木)

開館時間 / 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 / (~3/31)一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円
(4/1~)一般450円、大学・高校生300円、中学・小学生150円

※令和6年度(2024年度)より、料金改定を行います。何卒ご了承ください。

●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方
(手帳またはマイロIDの手帳画面を提示してください)、及び介護者1人、姫路市内在住の
65歳以上の方、どんぐりカード・ココロンカード提示の小中学生は無料

●20名以上の団体は2割引

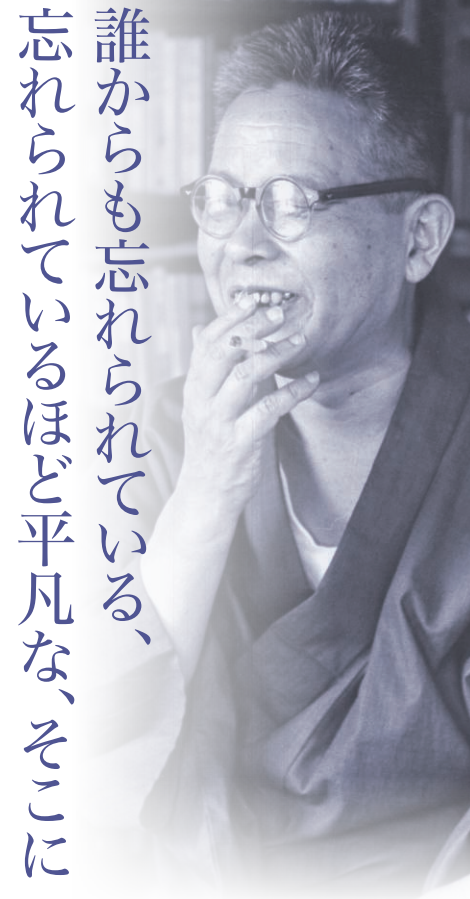
■協力 / 吉備路文学館 ■主催 / 姫路文学館



姫路文学館

HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE

<http://www.himejibungakukan.jp/>



誰からも忘れられている、
忘れられているほど平凡な、そこに
私達の真実は存している。

「何でもない詩論」
昭和6年5月「詩人時代」

平凡に、そしてたくましく生きる人々のいとなみを描き出し、その飄々とした無二の作品世界に根強いファンを持つ作家 詩人木山捷平。

じつは、その苦悩の青春の一時を姫路で小学校教員として過ごしていました。父親から文学の道を進むことを猛烈に反対され続けた木山が、個人誌「野人」を創刊したのは、姫路で教師をしていた昭和二年のことでした。その創刊号の後記に「私はひとりぼっち」と書いた孤独な青年は、この姫路時代の終わりの昭和四年に、第二詩集『野』の刊行と共に上京を果たし、本格的な文学活動をスタートさせました。

昭和初期の文壇で頭角を現し始めた矢先の昭和十九年十二月、すでに敗戦の色濃くなった時期に満州に渡り、「百年を生きたほどの苦しみに耐えた」という約一年の難民生活を経て生還した木山。そんな苛酷な満州体験をユーモラスに綴った『耳学問』などにより、世の中がこの作家の魅力に気づいた時、彼はすでに五十代半ばとなっていました。

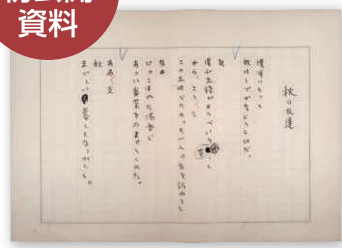
本展では、木山自身もほとんど何も書かなかった知られざる姫路時代にスポットをあてるほか、井伏鱒二、太宰治など同時代作家との交流、そしてようやく訪れた木山ブームの様相などをたどります。「駄目も目である——囲碁好きの木山が好んで書いた言葉です。どんなに辛く苦しい時も文学を手放さず、あえて目立たぬことを好むかのように、ひたすらに庶民の座に腰を下ろして書き続け、生きぬいた二人の男が、日本文学史上まれにみる作家として読み継がれている理由とは。」
生誕百二十年という節目に、没後五十年以上を経て愛され続ける「木山さん」の魅力にせまります。ぜひぜひご期待ください。



第詩集「野」

昭和4年／抒情詩社
高村光太郎をはじめ、多くの詩人たちの好評を得た。

発見！
初公開資料



詩稿「秋の友達」
荒川小学校で教師をしていた頃に書かれた詩。第一詩集『野』には「秋 一大西重利に」という題で収録されている。この詩稿も含め、当館が新たに入手した初期詩篇の詩稿群の謎にも迫ります。

愛用の酒器
酒をこよなく愛した木山愛用の薩摩焼の徳利と萩焼の杯。



主な著作
昭和43年に亡くなった後も、生前の数々の作品が出版された。

木山 捷平

きやま しょうへい
明治37年-昭和43年(1904-1968)

小説家・詩人。明治37年3月26日、岡山県小田郡新山村（現在の笠岡市）に生まれる。大正12年、姫路師範学校卒。兵庫県出石の弘道尋常高等小学校で2年の教職義務を終え上京。東洋大学に進むが病を得て中退、帰郷。休養後、昭和2年に荒川尋常高等小学校（現・姫路市立荒川小学校）、昭和3年に菅生尋常高等小学校（現・姫路市立菅生小学校）教師をつとめ再度上京。詩集に『野』（昭和4年）、「メクラとチンパ」（昭和6年）があり、のちに『木山捷平詩集』（昭和42年）、「木山捷平全詩集」（昭和62年）も編まれた。上京後、小説を書き始め、昭和8年、太宰治らとの同人誌「海豹」に加わる。昭和19年末に日満州（中国東北）に渡り、翌年の敗戦を迎える。約1年間の難民生活を経て21年に帰国。長く心身の不調に悩まされながらも、「耳学問」（昭和31年）により注目を集め、次第に人気作家となる。戦後、断片的に書き続けた大陸での日々を長編としてまとめた「大陸の細道」により昭和37年度芸術選奨文部大臣賞受賞。昭和43年8月23日、食道ガンにより64歳で他界。

記念イベント

●会場／姫路文学館講堂(北館3階) ●参加費／無料

世田谷ピンポンズライブ 木山捷平をうたうーおき忘れた下駄に雨がふるー

文学に造詣が深く、文筆活動も高い評価を得ているフォークシンガー世田谷ピンポンズさんに、木山作品をはじめとした愛する文学作品をモチーフにした曲をうたっていただきます。

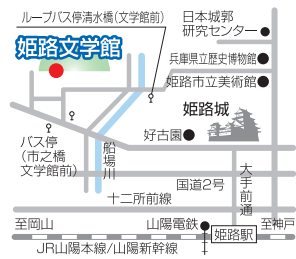
●日時／令和6年3月24日(日)午後2時～3時30分(開場は1時30分)
●会場／講堂(北館3階) ●定員／120人(観覧券の半券が必要・当日先着順)

2012年デビュー。これまでにアルバム6枚、シングル3枚を発表。木山捷平や上林暁、小山清、梅崎春生、太宰治などの小説家の作品をモチーフに曲を作ったり、萩原朔太郎や萩原恭次郎ら詩人の詩に曲をつけるなど、かつて山之口夔や木山捷平の詩に曲をつけて歌った高田渡らフォークシンガーの先達の系譜に立つ活動を続けている。



展示解説会

●講師／担当学芸員
●日時／令和6年2月25日(日)
午後1時30分～3時(開場は1時)
●会場／講堂(北館3階)
●定員／100人(当日先着順)



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

他館イベントのご案内

コレクションギャラリー
精神のきらめき
—西洋美術を中心に—
令和6年2月10日(土)～3月26日(火)
●姫路市立美術館 ☎079-222-2288

新春特別展
「書家・金澤翔子展」
—令和の近作と平成の代表作—
令和6年1月6日(土)～4月7日(日)
●姫路市立美術館 ☎079-267-0301

アクセス ●JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりば(一部停車しない系統があります。ご確認ください)で乗車約6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩約4分。6番のりば城周道観光ループバス(乗車約10分)、「清水橋(文学館前)」下車、西へ徒歩約3分
●山陽自動車道姫路東ICあるいは姫路西IC、下車約20分 ●姫路バイパス中地ランプ下車約15分

QRを読み込んで簡単アクセス
姫路文学館公式アカウントで情報を発信中!

ご来館の際の注意 ●展示会場の混雑を緩和するため、入場規制を行う場合があります。●駐車場の台数には限りがあります。公共交通機関のご利用にご協力ください。●最新情報は当館ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。